

第10回学習会「保健医療従事者の確保・育成」の概要

文責：中川 昭生

【報告1】 島根県医療計画に記載されている医療従事者確保の取り組み

益田の医療を守る会 中川昭生

島根県では、全国的にも厳しい医師不足や地域偏在に対応するため、「育てる」「呼ぶ」「助ける」の3つの柱を中心に、多様な職種で確保・育成対策を進めている。

1. 現状：益田圏域の厳しい状況

島根県全体の医師数は全国41位と低迷しており、特に二次医療圏ごとの比較では、益田圏域の医師数密度は県内でも低い水準（全国の下位1/3）にある。この現状を打破するため、県では医師を「呼ぶ・育てる・助ける」対策が実行されている。

2. 医師を「育てる・呼ぶ・助ける」対策

◇ 【育てる】 将来の医師を養成

- 奨学金と地域枠：自治医科大学や島根大学などの「地域枠」を活用し、将来県内で働くことを条件とした奨学金制度を設けている（令和5年度は計32名枠）。
- 早期教育：小・中・高校生への現場体験などを通じ、医療への関心を高める教育を行っている。

◇ 【呼ぶ】 全国から医師を招く

- 赤ひげバンク：無料職業紹介所を運営し、全国から医師を呼び寄せている。
- 若手支援：しまね地域医療支援センターを中心に、若手医師のキャリアプラン作成や相談支援を行っている。

◇ 【助ける】 現場の負担を減らす

- 勤務環境の改善：医療勤務環境改善支援センターを設置し、各病院の環境整備を支援している。
- 子育て支援：「えんネット」等を通じて、女性医師の仕事と子育ての両立や復職をサポートしている。

3. 多職種にわたる確保・育成

医師だけでなく、地域医療を支えるあらゆる専門職の確保に力を入れている。

- 薬剤師：小中高生への職業体験や、奨学金返還助成制度、大学訪問などを通じて県内就職を促している。
- 看護職員：県内養成校の充実や、U・Iターン枠の奨学金活用、潜在看護師の再就業支援（復職支援）を進めている。
- その他：歯科医療従事者、リハビリ専門職（理学療法士等）、管理栄養士、臨床工学技士など、各職種の資質向上と人材確保を支援している。

4. 市民の皆様へ

医療従事者を「確保」し「定着」させるためには、行政や病院の努力だけでなく、

「選ばれる地域」であることが重要です。私たちは、医療従事者が働きやすい環境を地域全体で支えていく必要があります。

【報告 2】 益田医師会における医療従事者確保の現状と今後に向けて

益田市医師会事務局長 天野 克之 氏

1. 医療従事者確保の状況

- ・ 医師確保については、新年度から新たに4名の医師が赴任してくれる予定。しかし病院機能を充実するためにはもう少し医師の確保が必要。
- ・ 看護師については、中途採用も積極的に行っており10名の採用ができた。この数年間不足感が高くなっている。
- ・ 介護福祉士の状況については、この地域には育成機関がほぼなく、非常に少ない状況である。ベトナムからの介護実習生を受け入れ、その方々の育成を早く進めて介護部門を充実させる体制に取り組んでいる。
- ・ 薬剤師については、新卒・既卒とも採用が非常に困難。県の協力を得て島根県立大学や島根県立中央病院からの派遣支援に手を上げたものの採用されなかった。
- ・ 放射線技師、診療放射線技師、社会福祉士、介護支援専門員についても不足感が高くなっている。特に社会福祉士については、在宅復帰のための調整機能充実や東部・中部の両包括支援センターの業務委託を受けているため、採用活動に取り組んでいるが厳しい。

2. 採用活動について

- ・ 新たに採用する4名の医師のうちの1名は、医師会で取り組んでいる「親父の背中プロジェクト」を利用。このプロジェクトでは、病院での診療や入院患者管理をしながら、かかりつけ医のクリニックに出向いて通常経験できない医療を学ぶ魅力的な仕組みになっている。
- ・ 医師確保のために、大学訪問はもとより地域医療振興協会（自治医科大学関連）や関係のある大阪の高槻病院へも訪問して、支援を依頼している。
- ・ 自治医科大卒の義務年限内医師は、県にも依頼に行っているがへき地勤務が中心なので医師会病院にはなかなか来ていただけない。しかし、義務年限が終わった医師を紹介してもらいたく、自治医科大学と関係が深い地域医療振興協会へ願いに行っている次第。
- ・ 大学訪問では、島根大学、山口大学、去年は大阪医科歯科大学にも行くなど、いろんな機会作りに努めている。
- ・ 介護福祉士については、資格がなくても介護士として採用し、介護福祉士になってもらう教育体制をもうけている。そのために明誠高校の介護福祉教育を教育面でも継続支援していきたい。
- ・ 人材育成面については、将来この益田で勤務してもらうために、教育体制の再整備が必要だと考えている。
- ・ 採用活動の課題として、採用活動の時間確保が困難であるため、IT化を進めて採用

活動に専念できる人員と日程を確保することが重要。4月にはキャリア支援センター長として専門の看護師を迎えることができる。採用活動の範囲を中国地方・九州から関西方面まで拡大する戦略を検討している。

- ・ 石見高等看護学院の状況は、令和8年度の入学者が定員40名に対して34名の見込み。もう1名検討中のため最大35名になる可能性がある。
- ・ 益田・浜田・津和野出身者が1年生14名、2年生8名、3年生14名となっており、県内就職率9割以上を目標としているが、この地域に留まってもらうことが重要。

【報告3】 益田赤十字病院における取り組み

益田赤十字病院 総務課教育研修係長 長戸 緑 氏

- ・ 病院の病床数284床、診療科24科、職員数601名（医師60名、看護師272名）。
- ・ 中学生・高校生の医療体験受け入れについて、県主催のメディカルアカデミーに開催協力し、益田市・浜田市の中学生約20名が参加している。参加者からは「とても勉強になった」「将来のことについてより深く考えられるようになった」などの感想を得ている。
- ・ 医学生の臨床実習として、島根大学医学部の5年次・6年次地域医療実習、6年次フレキシブル実習を受け入れている。1月から宿泊費を益田市が負担することになり、継続的な受け入れが可能になった。
- ・ 研修医は、ここ数年4名から6名を確保できており、就職フェアにも積極的に参加している。12月の島根大学での初期研修説明会では、参加病院中最多の16名の学生がブースを訪問した。
- ・ 看護学生を対象とした病棟看護助手業務のアルバイト募集を昨年からは開始し、実際にアルバイト参加者が4月から看護師として就職した事例がある。
- ・ 奨学金制度については、看護大学・看護学校卒業後の就職希望学生を対象に年額上限での貸与を行っており、過去3年間の就職率100%、離職率0%を達成している。
- ・ 専門研修プログラムとして総合診療医の専門医プログラムを整備し、現在3名が研修中。うち2名は初期研修も当院で行い、1名は当院、もう1名はよしか病院で勤務している。

【サプライズ】

長戸係長が、地域医療に関心を持ち、今日赤十字病院の高校生医療現場体験に参加した高校2年生Yさんを紹介。急遽、Yさんに自己紹介をしてもらった。

- ・ 益田高校2年生。益田が好きで、小学校高学年ころから医療に興味を持った。
- ・ 正月の山陰中央新報に掲載されたよしか病院の記事を見て、地域医療にすごく惹かれた。INSTAGRAMで調べて、よしか病院にアポを取って見学に行った。
- ・ 先生にお話を聞いたりする中で、自分もこんな風に地域と深く関わられるような医師になりたいと思ったので、前回と今回の学習会に参加させてもらい、今日は日赤で医療現場体験もさせてもらった。地域医療に深く関わられる医師を目指したい。

(会場から大拍手)

【報告 4】 益田市における取り組み

益田市 健康増進課医療対策室 参事 澤江 美弘 氏

- ・ 市の将来像「ひとが育ち 輝くまち 益田」の実現に向け、医療従事者確保を市全体の人材育成・確保の一環として位置づけている。
- ・ 「招く」取り組みとして、市長自ら大学を訪問し医師派遣を要請する活動や、益田に赴任した医師を市長・市議会・市民の会で歓迎する取り組みを行っている。
- ・ 医学生・看護学生の実習受け入れを行政としても支援し、病院への就職につながるよう取り組んでいる。
- ・ 「育む」取り組みとして、小学校・中学校での地域医療教育を全校で実施し、年1回は卒業生が母校で講演する機会を設けている。今年度は、自治医科大学に進学し県立中央病院に勤務している卒業生が豊川小学校で講演を行った。
- ・ 高校では地域探究の授業で医療をテーマとした事前学習を市が支援している。大学進学時には地域枠推薦で市長面接を実施している。
- ・ 大学入学後も定期的に市長と医学生の意見交換会を開催し、看護学生についても同様の取り組みを行っている。